

石垣島宮良方言の音韻研究序説

仲原, 穰

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

27

(開始ページ / Start Page)

139

(終了ページ / End Page)

157

(発行年 / Year)

2003-03-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012857>

石垣島宮良方言の音韻研究序説

仲 原 穰

はじめに

本稿は沖縄県石垣市字宮良の音韻体系の記述が目的である。宮良（みやら。方言ではメーラ[me:ra]）は、石垣島の中心地である旧四箇村（登野城・大川・石垣・新川）の東方に位置する集落である。1998年12月現在の統計資料によると、宮良の世帯数は529戸、人口は1,501人（男性737人、女性764人）である（石垣市発行「平成11年度 統計いしがき（第23号）」による）。今から約230年前、明和の大津波（1771年）と呼ばれる津波により、宮古・八重山は大きな被害をうけた。宮良も集落の多くの人々が流され、壊滅的な損害を被った。このとき小浜島からたくさんの人々が宮良に移された^(注1)。現在でも、民俗行事などで小浜島と共通するものが受け継がれている。また、小浜島を「親島（ルーツ）」と感じ、親近感を抱いている人も多い。

宮良方言の先行研究のなかで音韻に関する詳しい研究は報告されていない。音韻に関するものとして、平山輝男・中本正智（1964）に二拍名詞アクセント体系の報告がある^(注2)。また、中本正智（1981）に語彙資料の一部が報告されている。文法に関するものとして伊豆山敦子（1997・1999・2001他）や新垣公弥子（2000）があるが、これらは動詞や形容詞などの報告である。本稿では、宮良方言の音韻についてなるべく詳しく論じるつもりであるが、紙幅の都合上、音韻体系全体について論じることができない。各論については稿を改めて詳しく論じるつもりである。

調査は1999年4月上旬と2000年3月下旬から4月上旬にかけて、基礎語彙調査を中心とする臨地調査をおこなった。宮良方言のインフォーマントは、東成底光秀氏、大浜永昌氏、嵩田ヒサ子氏、盛山信八氏、盛山シズ氏、小濱勝義氏である^(注3)。

1. 音韻体系

1. 1. 音素

宮良方言の音素は、これまでの調査によると25個認められる。

母音音素 / i, i̥, e, a, o, u / （6個）

半母音音素 / j, w / （2個）

子音音素 / h, ', k, g, t, d, n, c, s, z, r, p, b, m / （14個）

拍音素 / q, N, R / （3個）

1. 2. 拍体系

宮良方言の拍構想は次の通りである。

一般拍 (1) C V (2) C S V

特殊拍 (3) N (4) Q (5) R

(1)にはすべての子音と母音が属する。

(2)の/j/の系列は/Cja/,/Cjo/,/Cju/である。/w/の系列は/Cwa/のみである。

(※Cは子音音素、Vは母音音素、Sは半母音音素を表す。)

(3)撥音/N/は語頭、語中、語末に立つ。

(4)促音/Q/は語頭、語中に立つ。

(5)長音/R/は語中、語末に立つ。

1. 3. 拍表

宮良方言の拍体系を示すと次の通りである。

拍表

'i	*	'e	'a	'o	'u	'ja	'jo	'ju	'wa
[ʔi~ji]		[ʔe~je]	[ʔa]	[ʔo]	[ʔu]	[ja]	[jo]	[ju]	[wa]
hi	*	he	ha	ho	hu	hja	*	*	hwa
[çi]		[he]	[ha]	[ho~φo]	[φu]	[ça]			[φa]
ki	kĩ	ke	ka	ko	ku	kja	kjo	kju	kwa
[ki]	[k'ĩ~kĩ]	[ke]	[ka]	[ko]	[ku]	[kja]	[kjo]	[kju]	[kwa]
gi	gĩ	ge	ga	go	gu	gja	*	*	—
[gi]	[gĩ]	[ge]	[ga]	[go]	[gu]	[gja]			
ti	*	*	ta	to	tu	—	—	—	—
[ti]			[ta]	[to]	[tu]				
di	*	de	da	do	du	—	—	—	—
[di]		[de]	[da]	[do]	[du]				
ci	cĩ	ce	ca	*	cu	cja	cjo	cju	—
[tʃi]	[tsĩ]	[tse~tʃe]	[tsa]		[tsu]	[tʃa]	[tʃo]	[tʃu]	
si	sĩ	*	sa	so	su	sja	sjo	sju	—
[ʃi]	[sĩ]		[sa]	[so]	[su]	[ʃa]	[ʃo]	[ʃu]	
zi	zĩ	ze	za	*	zu	zja	*	zju	—
[dʒi]	[dzĩ]	[dze]	[dza]		[dzu]	[dʒa]		[dʒu]	

ri	rī	re	ra	ro	ru	rja	*	*	—
[ri]	[rī]	[re]	[ra]	[ro]	[ru]	[rja]			
ni	*	ne	na	no	nu	na	*	*	—
[ni]		[ne]	[na]	[no]	[nu]	[na]			
pi	pī	pe	pa	po	pu	*	*	pju	—
[pi]	[pʰi~pī]	[pe]	[pa]	[po]	[pu]			[pju]	
bi	bī	be	ba	bo	bu	bja	bjo	*	—
[bi]	[bī]	[be]	[ba]	[bo]	[bu]	[bja]	[bjo]		
mi	*	me	ma	mo	mu	mja	*	*	—
[mi]		[me]	[ma]	[mo]	[mu]	[mja]			
N		Q			R				
[ŋ,n,n,m,N]		[ç,φ,k,kw,t,ts,tʃ,p]			[:]	(i,ī,e,a,o,u)			

(* 印は未確認の拍^(注4)、—は体系的あきま)

上に述べた音素と拍の体系について記述すると以下の通りである。

1. 4. 母音音素

宮良方言の母音音素は/i/,/ī/,/e/,/a/,/u/,/o/である。宮良方言の母音は、語頭で声門閉鎖音[ʔ]を伴うが音韻的な対立を示すものではない。

1. 4. 1. 狭母音音素

宮良方言の狭母音音素は/i/,/u/,/ī/である。これらは以下に示すような音韻的対立がみられる。

/piR/[pi:] <屁>(01)

/puR/[pu:] <帆>(02)

/pīR/[pī:] <陰門>(03)

/paR/[pa:] <菌>(04)

(01)対(02)対(03)対(04) は、[i]対[u]対[ī]対[a]の対立である。よって、それぞれ音素/i/,/u/,/ī/と認められる。なお、/ī/は子音[k,p]と結びつくとき、摩擦的噪音[*]を伴うが音韻的対立を示すものではない。

語例

/i/ (前舌・狭母音)

/ʰiri/[ʰi:ri] <錐>, /ʰizu/[ʰidzu] <魚>, /ʰiragi/[ʰiragi] <鱗>, /ʰikorba/

[ʰikorba] <いくつか> /ʰimi/[ʰimi] <夢>, /ʰisīsī/[ʰisīsī] <石臼>, /ʰiqhwadaru/

[ʔiɸɸadaru] <重い>, /ma'ihunar/[maiɸuna:] <利口者>, /hwa'imunu/[ɸaimunu]
<食べ物>, /pa'irī/[pairī] <酢>, /ku'i/[kui] <声>, /hu'i/[ɸui] <陰毛>,
/ma'i/[mai] <米>, /ha'i/[hai] <南>, /bu'i/[bui] <甥、姪>, /ta'i/[tai] <嫉妬>

/i/ (中舌・狭母音)

/k'īnu/[k'īnu] <昨日>, /bag'ī/[bag'ī] <腋>, /c'īra/[ts'ira] <頬>, /s'īrnikir/
[s'ī:niki:] <椎の木>, /'urudz'īn/[ʔurudz'īn] <初夏>, /tur'ī/[tur'ī] <鳥>,
/i'rī/[ʔi'rī] <西>, /p'īr/[p'ī:] <火>, /tab'ī/[tab'ī] <旅>

/u/ (後舌・狭母音)

/'uN/[ʔuN] <山芋>, /'uraza/[ʔuradza] <裏座(寢所)>, /'utu/[ʔutu] <音>,
/'umuza/[ʔumudza] <猪>, /'ubī/[ʔubī] <帯>, /'usī/[ʔusī] <牛>, /'usī/[ʔusī]
<臼>, /'a'u/[ʔau] <青>

1. 4. 2. 半狭母音素

宮良方言の半狭母音素は/e/, /o/である。以下のような音韻的対立がみられる。

/nerhun/[ne:ɸuN] <煮る>(05)

/norhun/[no:ɸuN] <直す>(06)

(05)対(06)は、[e]対[o]の対立である。よって音素/e/, /o/と認められる。

語例

/e/ (奥舌・半狭母音)

/'eRN/[ʔe:N] <来年>, /geR/[ge:] <〜へ>, /deRzī/[de:dzī] <大変>, /neRrī/[ne:rī]
<岬>, /hucī kubareR/[ɸʊtsī kubare:] <吃音>, /'anneR/[ʔanne:] <母>,
/'jubeRma/[jube:ma] <小指>, /meRma/[me:ma] <少なく>

/o/ (奥舌・半狭母音)

/'oRNgi/[ʔo:ŋgi] <扇>, /'orba/[ʔo:ba] <もう>, /'oRS'iki/[ʔo:s'iki] <天気>,
/'oR/[ʔo:] <豚>, /'onta/[ʔonta] <豚>, /'ormaher/[ʔo:mahe:] <嫌う>

1. 4. 3. 広母音素

宮良方言の広母音は/a/である。以下のような音韻的対立がみられる。

/naR/[na:] <名>(07)

/niR/[ni:] <荷>(08)

/noR/[no:] <なに>(09)

/nuR/[nu:] <野>(10)

(07)対(08)対(09)対(10)は[a]対[i]対[o]対[u]である。よって、/a/は音素と認められる。

語例

/a/ (中舌・広母音)

/ʼaza/[ʼadza] <痣>, /ʼasi/[ʼaʃi] <汗>, /ʼar/[ʼaː] <粟>, /ʼadu/[ʼadu] <踵>,
/ʼan/[ʼan] <網>, /ʼaka/[ʼaka] <赤>, /ʼagu/[ʼagu] <顎>, /ʼar/[ʼaː] <泡>,
/ʼazani/[ʼadzani] <アダン (蛸の木)>, /ʼazarī/[ʼadzarī] <棘>

1. 5. 半母音音素

宮良方言の半母音音素は/j/と/w/であり、以下のような音韻的対立がみられる。

/kjuR/[kjuː] <今日>……………(17)

/kuR/[kuː] <粉>……………(18)

/ʼjaR/[jaː] <家>……………(19)

/ʼwaR/[waː] <君、あなた>……………(20)

(17)対(18)は、[j]対ゼロ(ϕ)、すなわち[j]の有無によって対立している。また(19)対(20)は、[j]対[w]である。これらにより、それぞれ音素/j/,/w/と認められる。

語例

/j/ (軟口蓋・半狭母音)

/ʼjaR/[jaː] <矢>, /ʼjama/[jama] <山>, /maʼjaR/[majaː] <猫>, /ʼuʼja/[ʼuja] <親>,
/kuʼjorma naRra/ [kuʼjoːmanaːra] <ごめんください>, /ʼjuR/[juː] <湯>,
/ʼjukī/[jukī] <手斧>, /ʼjuda/[juda] <枝>, /maʼju/[maju] <眉>

/w/ (両唇・半狭母音)

/ʼwaR/[waː] <あなた> /ʼuʼwaruN/[ʼuwaruN] <終わる>, /kwarsī/[kwaːsī] <菓子>,
/hwaR/[ʰaː] <子供>

1. 6. 子音音素

1. 6. 1. 喉頭音素

宮良方言の喉頭音素は、/h/,/ʼ/である。以下のような音韻的対立がみられる。

/hubī/[ʰubī] <首>……………(21)

/ʼubī/[ʼubī] <帯>……………(22)

(21)対(22)は、[ʰ]対[ʼ]である。/h/は/u,w/の前では[ʰ]であり、/i,j/の前に立つときは[ç]、/e,o/の前では[h]である。これは相補分布といえる。また、宮良方言では語頭で母音音素と結びつくときに音聲的に[ʼ]を伴うが、それ以外では特に子音の要素はみられない。これを音韻的に解釈すると「やわらかな声立て」(gradual beginning)と考えることができる。よって、/h/,/ʼ/は音素と認められる。

語例

/h/ (喉頭音素・摩擦・無声音)

/hiruN/[çiruN] <呉れる (与える)>, /hana/[hana] <花>, /hatu/[hətu] <鳩>, /haci/[hətsi] <箸>, /murohorru tama/[muroho:ru tama] <丸い玉>, /turihorri/[turiho:ri] <取ってください>, /hunda/[ɸunda] <床>, /hudari/[ɸudar:i] <柄杓>, /torhu/[to:ɸu] <豆腐>, /hjaqki/[çakki] <百斤>, /hwar/[ɸa:] <子供>, /hworhwo'i/[ɸo:ɸoi] <黒い>

/ʔ/ (喉頭音素・摩擦・有声音)

/ʔisiʔi/[ʔisiʔi] <石臼>, /ʔirabuni/[ʔirabuni] <イラブ(海蛇の一種)>, /ʔagar/[ʔaga:] <痛い (感動詞)>, /ʔaqqon/[ʔakkon] <甘藷>, /ʔor'i/[ʔo:i] <年長者への呼びかけ>, /ʔun/[ʔun] <膿>, /ʔjaqqon/[jakkon] <薬缶>, /ʔjamu'i/[jamui] <二日酔い>, /ʔuhuʔjar/[ʔuɸuja:] <母屋>, /ʔjun/[jun] <弓>, /ʔwadar/[wada:] <君たち>

1. 6. 2. 軟口蓋音素

宮良方言の軟口蓋音素は/k/,/g/である。以下のような音韻的対立がみられる。

/kur/[ku:] <粉>(23)

/gur/[gu:] <組>(24)

/kumi/[kumi] <米>(25)

/gumi/[gumi] <塵>(26)

(23)対(24)は、[k]対[g]である。この対立は(25)対(26)でも並行的である。よって /k/,/g/は音素と認められる。

語例

/k/ (軟口蓋・破裂・無声音)

/kiR/[ki:] <木>, /kiruN/[kiruN] <蹴る>, /taki/[təki] <竹>, /k'in/[k'in] <黍>, /k'in/[k'in] <着物>, /sik'i/[s'ik'i] <月>, /siker/[ʃ'ike:] <ガンシナ (民具)>, /kani/[kani] <鉄>, /ʔaka/[ʔaka] <赤>, /korgun/[ko:gun] <漕ぐ>, /'ikorba/[ʔiko:ba] <いくつか>, /'jukorn/[juko:n] <休む>, /kubi/[kubi] <壁>, /paku/[paku] <箱>, /kunkjar/[kun'kja:] <螻蛄>, /mirgankjor/[mi:gan'kjo:] <眼鏡>, /kjur/[kju:] <今日>, /kwars'i/[kwa:s'i] <菓子>, /daqkwahwa'i/[dakkwaɸai] <くっつける>

/g/ (軟口蓋・破裂・有声音)

/gis'i/[gis'i] <下司 (召使い)>, /gira/[gira] <二枚貝>, /hatagi/[hatagi] <畑>, /garg'i/[ga:g'i] <鎌>, /bag'i/[bag'i] <腋>, /bagera/[bage:na] <湧き水>, /gazamuner/[gadzamune:] <ガジマル (植物)>, /kugani/[kugani] <黄金>, /sargor/[sa:go:] <咳>, /gusir/[guʃi:] <酒>, /minguru/[minguru] <木耳>, /tabagu/[tabagu] <煙草>, /gur/[gu:] <組>, /nugjar/[nugja:] <抜け>

1. 6. 3. 硬口蓋音素

宮良方言の硬口蓋音素は、/t/,/d/,/c/,/s/,/z/,/r/,/n/である。これらは以下のような音韻的対立がみられる。

/dusĩ/[dusĩ] 〈友達〉……………(27)

/tusĩ/[tʉsĩ] 〈年〉……………(28)

/tucĩ/[tʉtsĩ] 〈砥石〉……………(29)

/sĩr/[sĩ:] 〈巢〉……………(30)

/zĩr/[dzĩ:] 〈地面〉……………(31)

/tuzĩ/[tudzĩ] 〈妻〉……………(32)

/turĩ/[turĩ] 〈鳥〉……………(33)

/tar/[ta:] 〈田〉……………(34)

/nar/[na:] 〈名〉……………(07)

(27)対(28)は、[d]対[t]である。これにより/d/と/t/は音素と認められる。(28)対(29)は[s]対[ts]であり、(30)対(31)は[s]対[dz]である。[ts]と[dz]は[s]を介して対立する。よって、/c/と/z/と/s/は音素と認められる。また、(32)対(33)は[dz]対[r]であり、(34)対(07)は[t]対[n]である。[r]と[n]は、(31)対(34)の関係式を介して対立する。よって/r/と/n/は、それぞれ音素と認められる。

なお、/s/は[i,a,o,u]の前では[s]であり、[i]の前では[ʃ]である。また、/c/も[i,a]の前では[ts]であり、[i]の前では[tʃ]である。さらに/z/も[i,a]の前では[dz]であり、[i]の前では[dʒ]である。これらは何れも互いに補い合っていると見なすことができる。

語例

/t/ (歯茎・破裂・無声音)

/tĩn/[tĩn] 〈天〉, /tĩr/[tĩ:] 〈手〉, /tamunu/[tamunu] 〈薪〉, /nta/[nta] 〈土〉,
/tor/[to:] 〈窪地〉, /hʉntor/[ʉnto:] 〈本当〉, /turĩ/[turĩ] 〈鳥〉, /tuka/[tʉka]
〈十日〉, /ʼatu/[ʉatu] 〈後〉

/d/ (歯茎・破裂・有声音)

/sĩtadi/[sĩtadi] 〈醤油〉, /ʼjadĩn/[jadĩn] 〈必ず〉, /kandersĩ/[kande:sĩ] 〈踏み石〉,
/dabura/[dabura] 〈腓〉, /tida/[tida] 〈太陽〉, /bandar/[banda:] 〈私たち〉,
/bandor/[bando:] 〈水瓶〉, /dongu/[dongu] 〈道具〉, /dur/[du:] 〈胴〉,
/ʼjadu/[jadu] 〈戸〉, /kadu/[kadu] 〈角〉, /budu/[budu] 〈夫〉

/c/ (歯音・破擦・無声音)

/cimi/[tʃimi] 〈爪〉, /cibi/[tʃibi] 〈尻〉, /cĩzĩ/[tsĩdzĩ] 〈屋根〉,
/cĩbugutaki/[tsĩbugutaki] 〈釣り用の竹〉, /icĩban/[ʉitsĩban] 〈一番〉,
/ʼamancar/[ʉamantsa:] 〈ヤドカリ〉, /hacan/[hʉtsan] 〈鋏〉, /cuburĩ/[tʉsuburĩ]

〈冬瓜〉, /ʼaɕceɾ/[ʔattʃeɾ] 〈祖父〉, /kucjaɾ/[kɯtʃa:] 〈背中〉, /cjoɾdu/[tʃoɾdu] 〈丁度〉, /ʼuʼjancju/[ʔujantʃu] 〈鼠〉

/s/ (歯音・摩擦・無声音)

/sikiru/[ʃiːkiru] 〈海鼠〉, /sizja/[ʃidʒa] 〈年長者〉, /siki/[sɨki] 〈鋤〉,
/musi/[musi] 〈筵〉, /sakuruber/[sɔkurube:] 〈しゃっくり〉, /saɕtaɾ/[satta:]
〈砂糖〉, /ʼikusa/[ʔikɯsa] 〈戦〉, /basoɾ/[baso:] 〈芭蕉〉, /muʼisoɾ/[muiso:]
〈燃えている〉, /sutumudi/[sɯtumudi] 〈朝〉, /ʼinsukaharɾu/[ʔinsɯkaha:ru] 〈短い〉,
/busjaɾ/[buʃa:] 〈背骨〉, /gusjoɾ/[guʃo:] 〈後生〉, /sjuɾwa/[ʃu:wa] 〈心配〉

/z/ (歯音・摩擦・有声音)

/zibita/[dʒibita] 〈ずるい〉, /kazimartarnama/[kadʒima:ta:nama] 〈燕〉,
/zigu/[zigu] 〈デイゴ〉, /ziɾ/[dzɨ:] 〈字〉, /tuzi/[tudʒi] 〈妻〉, /kazerra/
[kadze:ra] 〈肩胛骨〉, /sazerma/[sadze:ma] 〈匙〉, /zaga/[dzaga] 〈蜥蜴〉,
/nanza/[nandza] 〈銀〉, /hazun/[hadzun] 〈蜂〉, /mazun/[madzun] 〈一緒に〉,
/nzjaqtu/[ndʒattu] 〈非常に〉, /pibizja/[pibidʒa] 〈山羊〉, /zjuɾ/[dʒu:] 〈尾〉

/r/ (歯茎・はじき音)

/ciri/[tʃiri] 〈塵〉, /bari/[bari] 〈谷〉, /makari/[makari] 〈碗〉, /kumuri/
[kumuri] 〈池〉, /sureɾ/[sure:] 〈皿〉, /pikareɾ/[pɨkare:] 〈蛭〉, /kukuraki/
[kɯkuraki] 〈胸焼け〉, /parar/[para:] 〈柱〉, /piroma/[piroma] 〈昼間〉, /ʼarron/
[ʔa:ron] 〈洗う〉, /hukuru/[ɸɯkuru] 〈袋〉, /duru/[duru] 〈泥〉, /magirja/
[magirja] 〈曲げる〉

/n/ (歯茎・通鼻音)

/nisi/[nisi] 〈北〉, /pani/[pani] 〈羽〉, /nera/[ne:ra] 〈右〉, /saner/[sane:]
〈禪〉, /naba/[naba] 〈茸〉, /nada/[nada] 〈涙〉, /ʼana/[ʔana] 〈穴〉, /ʼinoɾ/
[ʔino:] 〈砂〉, /noɾn/[no:n] 〈縫う〉, /nun/[nun] 〈蚤〉, /nunu/[nunu] 〈布〉

1. 6. 4. 両唇音素

宮良方言の両唇音素は/p/, /b/, /m/である。以下のような音韻的対立がみられる。

/pada/[pada] 〈肌〉……………(35)

/bada/[bada] 〈腹〉……………(36)

/paɾ/[pa:] 〈刃〉……………(37)

/baɾ/[ba:] 〈私〉……………(38)

/maɾ/[ma:] 〈孫〉……………(39)

(35)対(36)は、[p]対[b]である。また、(37)対(38)対(39)は[p]対[b]対[m]である。よって、/p/, /b/, /m/はそれぞれ音素と認められる。

語例

/p/ (両唇・破裂・無声音)

/pira/[pira] <筈>, /piN/[piN] <大蒜>, /p̥iciz̥i/[p̥i̥ts̥idz̥i] <羊>, /p̥idar̥i/[p̥i̥dar̥i] <左>, /perriru/[pe:riru] <入った>, /surper/[su:pe:] <木匙>, /paN/[paN] <足>, /ʼaqp̥ar/[ʼappa:ɹ] <祖母>, /suq̥p̥on/[sup̥p̥on] <スッポン (亀の一種)>, /tiq̥pu/[t̥ippu] <鉄砲>, /pjurs̥i/[pju:s̥i] <ひよどり>

/b/ (両唇・破裂・有声音)

/bikidun/[bikidun] <男>, /habiru/[habiru] <蝶>, /kubi/[kubi] <壁>, /ʼib̥i/[ʼib̥i] <蝦>, /naberra/[nabe:ra] <糸瓜>, /ʼjurber/[ju:be:] <妾>, /baʼi/[bai] <倍>, /cjaban/[tʃaban] <茶碗>, /bork̥iru/[bo:k̥iru] <乱暴者>, /Nb̥on/[mb̥on] <ご飯>, /nibun/[nibun] <寝る>, /habu/[habu] <ハブ(蛇の一種)>, /kabur̥i/[kabur̥i] <蝙蝠>, /z̥ib̥jaɾ̥nkaza/[dz̥ib̥ja:ɾ̥kadza] <葛の一種>, /bjorhorn/[bjoho:N] <痒い>

/m/ (両唇・通鼻音・有声音)

/mir/[mi:] <新しい>, /ʼimi/[ʼimi] <夢>, /hudac̥imer/[ɸudats̥ime:] <鼠の一種>, /merda/[me:da] <まだ>, /marbi/[ma:bi] <真似>, /ʼjamarmi/[jama:mi] <山亀>, /Nm̥arma/[mma:ma] <天道虫>, /morhjar/[mo:ɕa:] <燃やせ>, /tumorru/[tumo:ru] <海>, /murru/[mu:ru] <みんな>, /kumu/[kumu] <雲>, /humjar/[ɸumja:] <踏め>

1. 7. 拍音素

宮良方言の拍音素は/N/,/Q/,/R/である。

1. 7. 1. 撥音音素/N/

/kaN/[kaN] <蟹> (40)

/kaR/[ka:] <皮> (41)

(40)対(41)は[N]対[:]の対立である。よって、/N/は音素と認められる。

/N/は、次に来る子音によって調音位置が決まっており、一拍を形成する。具体的には、以下に示すように軟口蓋音[k,g]の直前では軟口蓋鼻音[ŋ]、硬口蓋音[ç,f,j]の直前では硬口蓋鼻音[ɲ]、歯茎音[t,d,f,tʃ,dʒ,n]と歯音[s,ts,dz]の直前では歯茎鼻音[n]、両唇音[b,p,m]の直前では両唇鼻音[m]、語末では不完全鼻音[N]である。これらはいずれも鼻音であるという共通の特徴を有している。よって、/N/は[ŋ,n,m,N]の異音を有すると解釈することができる。

語例

/N/ (撥音)

/cinankaN/[ts̥inaŋkaN] <蟹の一種>, /ngin/[ŋgin] <鱭>, /sinhic̥i/[ʃiŋɕi̥ts̥i] <親切>,

/pan simitar/[pan fimita:] <足(を)洗ったか>, /nbon'ja/[mboŋja] <ご飯は>, /nta/[nta] <土>, /ndiru/[ndiru] <出る>, /banciru/[bantʃiru] <グッパ>, /nzjaqtu/[ndʒattu] <非常に>, /nnikasa/[nnikaʃa] <簀笠>, /ninsikuni/[ninsɨkuni] <寝床>, /ʼamancar/[ʼamantsa:] <ヤドカリ>, /ʼakanzi/[ʼakandzi] <髪の毛>, /canpurur/[tʃampurur:] <炒めもの(料理名)>, /nbuhjar/[mbuʃa:] <煮込み料理>, /nma/[mma] <馬>, /junen/[junen] <夕方>

1. 7. 2. 促音音素/q/

/muqtu/[muttu] <全然>……………(42)

/mutu/[mutu] <元>……………(43)

(42)対(43)は[t]対ゼロ(ϕ)である。つまり、/q/の有無が弁別の特徴として働いているといえる。よって、/q/は音素と認められる。

/q/は、次に来る子音と同じ調音点の子音が一拍をなす。具体的には、以下に示すように[ç]の前では[ç]、[ɸ]の前では[ɸ]、[k,kw]の前では[k]、[t,ts,tʃ]の前では[t]、[p]の前では[p]である。この場合、音声的実質の相違は意味の弁別に関わっておらず、分節音素の音声的環境をこえた一定の時間的単位と認められる。

語例

/q/ (促音)

/zoqhuru/[dzoççiru] <濡れる>, /kiqhu/[kiɸɸu] <煙>, /cuqkar/[tʃukka:] <急須>, /daqkkwahwa'i/[dakkwaɸai] <くつつけろ>, /ʼaqtani/[ʼattani] <急に>, /kiqcadaru/[kittsadaru] <きつい>, /siqcja/[ʃittʃa] <砂糖黍>, /sirqpa/[ʃi:ppa] <たくさん>

1. 7. 3. 長音音素/r/

/torrar/[to:ra:] <台所>……………(44)

/torra/[to:ra] <影>……………(45)

(44)対(45)は[:]対ゼロ(ϕ)である。つまり、/r/の有無が弁別の特徴として働いているといえる。/r/は、その直前の母音と同じ口構えで一拍分長く調音されるものである。これら長音の音声実質はそれぞれ直前の母音と同じであるが、分節音素としてのそれぞれの母音の属性をこえて、時間的単位としての一拍分の長さが意味の弁別に関与していると解釈できる。

語例

/r/ (長音)

/kir/[ki:] <毛>, /zir/[dzɨ:] <地>, /merrebitar/[me:rebita:] <娘たち>, /tanerma/[tane:ma] <少年>, /ʼar'ja/[ʼa:ja] <父>, /marsu/[ma:su] <塩>

/ˈjanaR/[jana:] <良くない>, /midorma/[mido:ma] <少女>, /ˈoR/[ʔo:] <はい (目上に対する返事)>, /ˈjuRu/[ju:ru] <夜>, /miRhaˈi ˈjuR/[mi:hai ju:] <ありがとう>

2. 音韻対応

宮良方言といわゆる共通語との対応関係を個別拍と拍連続で以下に示す。

2. 1. 個別拍の対応

2. 1. 1. ア行音

共通語	ア	イ	ウ	エ	オ
宮 良	ˈa	ˈi	ˈu	ˈi	ˈu

共通語のイとエは/ˈi/に統合している。

イ：[ʔita] <板>, [mainitsi] <毎日>

エ：[ʔibʲi] <海老>, [ʔirabuN] <選ぶ>, [kui] <声>

ただし、共通語のイが/N/に対応している例がみられる。

[nnapˈiːkarʲi] <稲光>

共通語のアは/ˈa/に対応している。

ア：[ʔaka] <赤>, [ʔa:ra] <蟻>

共通語のオとウは/ˈu/に統合している。

ウ：[ʔu:] <卵>, [ʔusi] <牛>, [ʔusi] <臼>

オ：[ʔutu] <音>, [ʔubi] <帯>

ただし、共通語のウが語頭において/N/に対応している例もみられる。

[mma] <馬>

なお、/z/と/c/と/s/の直後に位置する共通語の/u/は/ˈi/に対応するのが一般的である。

ズ：[kardzʲi] <数 (～するたび)>, [midzʲi] <水>

ツ：[tsʲira] <面 (頬)>, [natsʲi] <夏>

ス：[namasʲi] <膾>, [masʲi] <まし (助動詞)>

2. 1. 2. カ行音

共通語	カ	キ	ク	ケ	コ
宮 良	ka	kʲi	hu	ki	ku

キ：[kʲiN] <衣>, [kʲiN] <黍>, [kʲiri] <霧>

ただし、共通語のキが/ki/に対応している例もみられる。

[ki:] <木>

また、共通語のキが/si/に対応している例もみられる。

[sĩki] 〈聞け〉

ケ：[ki:] 〈毛〉, [t̥aki] 〈竹〉

カ：[kana] 〈鉤〉, [naka] 〈中〉, [h̥aka] 〈墓〉

ただし、共通語のカが/ga/に対応している例もみられる。

[garasa] 〈烏〉, [junaga] 〈夜中〉, [ju:ga] 〈四日〉

なお、本土方言にみられる合拗音クッは/kwa/に対応している。

[kwa:sĩ] 〈菓子〉

ク：[ϕ̥utsĩ] 〈口〉, [ϕ̥ut̥fu] 〈糞〉

ただし、共通語のクが/ku/に対応している例もみられる。

[ʔikusa] 〈戦〉

また、共通語のクが有声化して/ga/に対応している例がみられる。

[ʔarugun] 〈歩く〉

コ：[ku:] 〈粉〉, [ϕ̥ukui] 〈埃〉, [muku] 〈婿〉

2. 1. 3. ガ行音

共通語	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
宮 良	nga	ngĩ	ngu	ngi	gu

ガ：[kangan] 〈鏡〉, [ningai] 〈願い〉

ただし、共通語のガが、そのまま/ga/に対応している例もみられる。

[gaki] 〈崖〉, [kugani] 〈黄金〉

ギ：[ʔo:ngĩ] 〈扇〉, [ʃusa:ngĩ] 〈白鷺〉

ただし、共通語のギが/n/に対応している例もみられる。

[mun] 〈麦〉

グ：[dongu] 〈道具〉

ゲ：[pingirun] 〈逃げる〉

ただし、共通語のゲが/gi/に対応している例もみられる。

[ningin] 〈人間〉, [pagi:] 〈禿げ (た人)〉

なお、語中の共通語のゲが/ni/に対応している例もみられる。

[pini] 〈鬚〉

ゴ：[gumi] 〈塵〉, [guʃo:] 〈後生〉, [ʔagu] 〈顎〉

2. 1. 4. サ行音

共通語	サ	シ	ス	セ	ソ
宮 良	sa	sĩ	sĩ	si	sju

サ：[sək'i] 〈先〉, [sara] 〈皿〉

ただし、共通語のサが/ca/に対応している例もみられる。

[hatsan] 〈鉢〉

シ：[sima] 〈島〉, [sita] 〈下〉, [kutus'i] 〈今年〉

ただし、共通語のシが/ci/に対応している例もみられる。

[ɸuts'i] 〈櫛〉, [pats'i] 〈箸〉, [kutsimaki] 〈腰巻〉

また、共通語のシが/si/に対応している例もみられる。

[jirus'i] 〈印〉, [ʔifi] 〈石〉

なお、共通語のシが/tu/に対応している例もみられる。

[pɸtu] 〈星〉

ス：[siki] 〈鋤〉, [sīdz'i] 〈筋〉, [sisi] 〈煤〉

ただし、共通語のスが/si/に対応している例もみられる。

[jini] 〈脛〉

また、共通語のスが/ci/に対応している例もみられる。

[ɸɸtjiri] 〈薬〉

セ：[ʔafi] 〈汗〉

ただし、共通語のセが/hi/に対応している例がみられる。

[ʔiŋɕits'i] 〈親切〉

ソ：[ɸɸfugu] 〈不足〉, [mifu] 〈味噌〉, [ʔifugun] 〈急ぐ〉

2. 1. 5. ザ行音

共通語	ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ
宮 良	za	zī	zī	zi	zu

ザ：[dza:] 〈座（部屋）〉, [ʔadza] 〈痣〉

ジ：[dzī:] 〈字〉, [kidzī] 〈傷〉, [dzinan] 〈次男〉

ズ：[kidzī] 〈傷〉

ゼ：[dʒin] 〈銭（お金）〉, [dʒin] 〈膳〉

ゾ：[kudzu] 〈去年〉^(注5)

2. 1. 6. タ行音

共通語	タ	チ	ツ	テ	ト
宮 良	ta	cī	cī	tī	tu

タ：[ta:] 〈田〉, [tani] 〈種〉, [ɸɸta] 〈蓋〉

ただし、共通語のタが語中において有声化し/da/に対応している例もみられる。

[bada] <腸 (腹)>

チ：[tsĩkara] <力>，[tsĩ:] <乳>，[tsĩ:] <血>

ただし、共通語のチが有声化して/zĩ/となっている例もみられる。

[kaɬadzĩ] <形>

ツ：[tsĩtsĩ] <槌>，[tsĩna] <綱>

ただし、共通語のツが/ci/に対応する例もみられる。

[tʃimi] <爪>

なお、共通語のツが/sĩ/に対応する例もみられる。

[sĩkĩ] <月>

テ：[tĩkĩ] <敵>，[tĩ:] <手>

ただし、共通語のテが有声音/di/に対応する例がみられる。

[ʔumudi] <面 (顔)>

ト：[tʊtsĩ] <砥石>，[tʊsĩ] <年>，[pʰĩturĩ] <一人>

ただし、共通語のトが有声音/du/に対応している例もみられる。

[bududui] <一昨日>

また、口蓋化により共通語のトが/cu/に対応することがある。

[ʔitʃuɸu] <いとこ>

2. 1. 7. ダ行音

共通語	ダ	(ヂ)	(ヅ)	デ	ド
宮 良	da	zĩ	zĩ	di	du

ダ：[ʔamadarĩ] <雨垂れ (滴)>，[padasĩ] <裸足>，[pada] <肌>

ただし、共通語のダが/za/に対応している例もみられる。

[ʔasĩdza] <足駄>

(ヂ)：[pidzĩ] <肘>，[ʔidzĩ] <意地 (勇気のある者の意)> (注6)

(ヅ)：[midzĩ] <水>

ただし、共通語のヅが/zi/に対応している例もみられる。

[ʃidzimi] <沈めろ>

なお、共通語のズラ (ヅラ) が/za/に対応している例がみられる。

[kadza] <葛>

デ：[ʔudi] <腕>

ド：[duku] <毒>，[nudu] <喉>，[kadu] <角>，[kamadu] <竈>

2. 1. 8. ナ行音

共通語	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
宮 良	na	ni	nu	ni	nu

ナ：[na:]〈名〉, [ʔana]〈穴〉

ニ：[pinitɕi]〈日にち〉

ヌ：[nu:]〈野〉, [nunu]〈布〉

ただし、共通語のヌが/ɲ/に対応している例もみられる。

[kʰiɲ]〈衣〉

ネ：[kani]〈金（金物）〉, [pani]〈羽〉

ノ：[nu:]〈野〉, [nu:rɪ]〈海苔〉

2. 1. 9. ハ行音

共通語	ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
宮 良	pa	pɪ	hu	pi	pu

ハ：[pa:]〈刃〉, [paku]〈箱〉, [pan]〈判〉, [pai]〈這え〉

ただし、共通語のハが/ha/に対応する場合がある。

[hanasɪ]〈話〉, [hana]〈花〉

ヒ：[pʰidarɪ]〈左〉, [pʰɪtu]〈人〉, [pʰi:]〈火〉

ただし、共通語のヒが/pi/に対応する例が見られる。

[pidzɪ]〈肘〉

フ：[ɸuni]〈船〉, [ɸukuru]〈袋〉

ヘ：[pɪta:]〈下手〉, [pi:]〈屁〉, [pira]〈篋〉

ホ：[pu:]〈帆〉, [purimuni]〈惚れ者（馬鹿）〉, [puni]〈骨〉

2. 1. 10. バ行音

共通語	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
宮 良	ba	bɪ	bu	bi	bu

バ：[baso:]〈芭蕉〉, [tabagu]〈煙草〉, [nubaɸun]〈伸ばす〉

ビ：[ʔubɪ]〈帯〉, [tabɪ]〈旅〉

ただし、共通語のビが/bi/になっている例もみられる。

[jubi]〈指〉

ブ：[kurubun]〈転ぶ〉

ただし、共通語のブが/ba/に対応する例もみられる。

[kabaɸun]〈被せる〉

なお、共通語のブラが/ba/に対応する例もみられる。

[ʔaba] <油>

ベ：[bitsĩnu] <別の>，[nabi] <鍋>，[kurabirun] <較べる>

ボ：[marubun] <丸盆>，[tsĩbu] <壺>

2. 1. 11. マ行音

共通語	マ	ミ	ム	メ	モ
宮 良	ma	mi	mu	mi	mu

マ：[ma:] <孫>，[mai] <前>，[matsĩ] <町（市場）>

ただし、共通語のマが/me/に対応している例もみられる。

[me:da] <まだ>

ミ：[min] <耳>，[mitsĩ] <道>

ただし、共通語のミが語末にある環境では/n/に対応するのが一般的である。

[kan] <神>，[nan] <波>，[sĩn] <炭>，[ʔan] <網>

ム：[munu] <物>，[musĩ] <虫>，[mura] <村>

ただし、共通語のムが/n/に対応している例もみられる。

[nni] <胸>

メ：[mi:] <目>，[mami] <豆>，[kami] <海亀>

モ：[mumu] <腿>，[kumu] <雲>

2. 1. 12. ヤ行音

共通語	ヤ	ユ	ヨ
宮 良	ʔja	ʔju	ʔju

ヤ：[ja] <矢>，[jama] <山>

ユ：[ju:] <湯>，[jun] <弓>，[maju] <繭>

ヨ：[jumi] <嫁>，[jumu] <読む>

2. 1. 13. ラ行音

共通語	ラ	リ	ル	レ	ロ
宮 良	ra	rĩ	ru	ri	ru

ラ：[tura] <虎>，[para:] <柱>，[ʔura] <裏>

リ：[kannarĩ] <雷>，[turĩ] <鳥>，[ju:rĩ] <夜>

ただし、共通語のりに/ri/や/i/が対応している例もみられる。

[tʃiri] <塵>；[ʔukui] <埃>，[ʔutʃiri] <薬>

ル：[kuruma]〈車〉, [ju:ru]〈夜〉

ただし、共通語のルが/N/に対応している例もみられる。

[pin]〈蒜〉

また、共通語のルが/ro/に対応している例もみられる。

[piroma]〈昼間〉

レ：[kuri]〈これ〉, [kariru]〈枯れる〉, [ʔiriruN]〈入れる〉

ロ：[ʔiru]〈色〉, [duru]〈泥〉

2. 1. 14. ワ行音

共通語 ワ (ヲ)

宮 良 ba bo

ワ：[bana]〈罌〉, [tʃabaN]〈茶碗〉

ただし、共通語のワが/ʔja/に対応している例もみられる。

[jarabi:]〈童〉

(ヲ)：[bu:]〈緒（鼻緒）〉, [budurʔi]〈踊り〉, [budu]〈夫〉

2. 2. 拍連続の対応

2. 2. 1. 共通語の/Cuʔi/の拍連続は/Ci/に対応している。

ウイ：[du:ʃi]〈雑炊〉

2. 2. 2. 共通語の/Caʔi/と/Caʔe/の拍連続（歴史的仮名遣い「アヘ・アキ」も含む）は/CeR/と/Caʔi/に対応している。

アイ：[de:dzʔi]〈大事（大変）〉, [pe:ri ɸʊtsʔi]〈入り口〉

[bai]〈倍〉, [pai]〈灰〉

アエ：[mai]〈前〉

2. 2. 3. 共通語の/Caʔwa/の拍連続は/Car/に対応するのが一般的である。

アワ：[ka:]〈皮〉, [ʔa:]〈泡〉, [na:]〈縄〉, [ma:rʔi]〈周り（周囲）〉

2. 2. 4. 共通語の/Caʔu/（歴史的仮名遣いではアフ）は/CoR/に、/Caʔo/の拍連続（歴史的仮名遣いでアホ）は/Caʔu/に対応するのが一般的である。

アウ：[doŋgu]〈道具〉, [pinto:]〈返答〉, [gumbo:]〈牛蒡〉

アオ：[ʔau]〈青（緑も含む）〉

ただし、共通語の/Caʔu/が/CuR/に、/Caʔo/が/CoR/に対応する例もみられる。

[du:ʃi] 〈雑炊〉, [no:ruN] 〈治る〉

なお、共通語の/CjoR/（歴史的仮名遣いヤウ/Cja'u/）も/CoR/に対応する。

ヤウ：[dʒo:dzɨ] 〈上手〉, [guʃo:] 〈後生〉

2. 2. 5. 共通語の/Co'u/と/Co'o/の拍連続は/CuR/に対応するのが一般的である。

オウ：[du:] 〈胴（体）〉

オオ：[ku:ri] 〈氷（砂糖の一種）〉

2. 2. 6. 共通語の/o'we/と/o'wi/と/u'e/（歴史的仮名遣いではオエ〈ヤ行のエ〉・オ エ・ウエを含む）は/u'i/に対応するのが一般的である。

オエ：[kui] 〈声〉, [kuiruN] 〈越える〉

ウエ：[ʔui] 〈上〉

注

- (1) 「大波之時各村之形行書」（石垣市総務部市史編集室編『石垣市史叢書12』（1998年刊行）に所収）によれば、宮良村の住民1221人中、生き残ったのは171人であったという。そこで在番であった野国親雲 上に願い出て、小浜村から320人を移住させ、村を再建している。
- (2) 平山・中本（1964：86）によると、宮良方言の二拍名詞アクセント体系は、1・2類が「頭高●○、●○▷型」である。ただし、無声化による「p̥i̯tu（人）のような音韻環境のものは、尾高○●▷型で、+nuの形ではnuは低く続く」と報告されている。宮良方言と小浜方言との違いについて、「発音もかなり似てるが、小浜ほど呼気が強くなく、無声化もかなり起こるが、小浜ほど極端ではない」と注記されているのも興味深い。
- (3) インフォーマントの生まれた年並びに性別は以下の通りである。東成底光秀氏（1913年生。男性）、大浜永昌氏（1913年。男性）、嵩田ヒサ子氏（1916年生。女性）、盛山信八氏（1928年生。男性）、盛山シズ氏（1930年生。男性）、小濱勝義氏（1934年生。男性）。6人とも宮良で生まれ、言語形成期を宮良で過ごし、調査時に石垣市宮良に在住の方々である。
- (4) ここで示した未確認の拍（＊印）とは、今後の再調査によって出てくる可能性のある拍である。特に/i/と/e/と/o/列はまだらで、体系からすると今後出てくる可能性が高い。
- (5) これまでの調査では共通語のゾに対応する語例が出てこない。よって、日本古語との対応を示した。

(6) 共通語のヂ・ヅ音はジ・ズに統合した、いわゆる「二つ仮名」であるが、宮良方言ではすべて/zi/に統合している。

お忙しい中、貴重な時間をさいて調査にご協力くださいました皆様に心よりお礼を申し上げます。

参考文献

- 新垣公弥子 2000 「沖縄県石垣市宮良方言の活用体系」(『千葉大学日本文化論叢』創刊号)
- 伊豆山敦子 1996 「琉球方言の母音調和的傾向」(『獨協大学教養諸学研究』第31巻第1号)
- 伊豆山敦子 1997 「琉球・石垣宮良方言の動詞語形変化」(『獨協大学教養諸学研究』第31巻第2号)
- 伊豆山敦子 1999 「八重山・宮良方言動詞言い切りの形と意味・用法」(『獨協大学諸学研究』第2巻2号)
- 伊豆山敦子 2001 「琉球・八重山・石垣(宮良)方言の動詞言い切りの形」(『アジア・アフリカ文法研究』29号)
- 大野眞男・久野眞・杉村孝夫・久野マリ子 2000 「南琉球方言の中舌母音の音声実質」(『音声研究』第4巻第1号)
- 加治工真市 1982 「琉球、小浜方言の音韻研究序説」(『琉球の言語と文化』論集刊行委員会)
- 加治工真市 1987 「八重山方言の比較音韻論序説」(『琉球方言論叢』琉球方言論叢刊行委員会)
- 名嘉真三成 1992 『琉球方言の古層』第一書房
- 中本 正智 1976 『琉球方言音韻の研究』法政大学出版局
- 中本 正智 1981 『図説琉球語辞典』力富書房金鶏社
- 服部 四郎 1960 『言語学の方法』岩波書店
- 平山輝男・中本正智 1964 『琉球与那国方言の研究』東京堂
- 宮良 當杜 1930 『八重山語彙』東洋文庫
- 琉球大学方言研究クラブ 1969 「小浜方言の調査報告」(『琉球方言』第9・10号)